

先人顕彰シリーズの展示 ふるさとの豊かな文化の礎と、すぐれた先人の遺徳を偲ぶ...

- ◆第1次展示 H2.7-H3.6
 瀬川 清子 (1895-1984) 女性民俗学の大家 (毛馬内)
 杉山 万喜蔵 (1907-1957) 地域医療に貢献 (尾去沢)
 小田島 樹人 (1885-1959) 気品に富んだ作曲家 (花 輪)
 小関 直右衛門 (1873-1943) 鹿角の観光に新時代を築いた (八幡平)
 阿部 藤助 (1886-1928) 郷土の興隆に生涯を捧げた (八幡平)
- ◆第2次展示 H3.7-H4.6
 小田島 由義 (1845-1920) 郡長として殖産興業に尽くした (花 輪)
 小浅井 小魚 (1875-1947) 俳人・大湯環状列石発見者 (大 湯)
 田村 徳治 (1886-1958) 日本行政学の創設者 (花 輪)
 大里 武八郎 (1872-1972) 名著「鹿角方言考」の著者 (花 輪)
 大渡 八繁雄 (1886-1976) 地域農業の近代化を促進 (八幡平)
- ◆第3次展示 H4.7-H5.7
 阿部 恭助 (1886-1928) 鉱山日記「阿津免草」の著者 (尾去沢)
 立山 第 四郎 (1867-1937) 郷土の産業と教育に貢献 (毛馬内)
 川村 竹富 (1871-1955) 育英会を創立した司法大臣 (花 輪)
 諏訪 富多 (1883-1981) 地域産業文化の発展に貢献 (大 湯)
- ◆第4次展示 H5.8-H6.7
 田中 北嶺 (1838-1918) 「戊辰戦役図絵」を描く (毛馬内)
 坂田 祐 祐 (1878-1969) 関東学院設立と教育に献身 (大 湯)
 大里 周蔵 (1884-1965) 町政に尽力した文化医師 (花 輪)
 栗山 文次郎 (1886-1965) かづの古代菌、紫根染の大家 (花 輪)
 高杉 重右衛門 (1889-1964) 地方行政農事に寄与・歌人 (尾去沢)
- ◆第5次展示 H6.8-H7.9
 浅利 佐助 (1844-1920) 醤油醸造業の基礎を築いた (花 輪)
 宮城 佐次郎 (1881-1951) 教育と地方自治に貢献 (花 輪)
 伊藤 良三 (1883-1964) 教育と町政に尽くす (毛馬内)
 立山 林平 (1888-1918) 将来を囑望された天才数学者 (毛馬内)
 阿部 貞一 (1895-1950) 農村電化と観光事業の先覚者 (八幡平)
- ◆第6次展示 H7.10-H8.9
 児玉 高慶 (1888-1929) 武道を奨励し青少年を指導 (花 輪)
 柴田 春光 (1901-1935) 才能をうたわれた若き画家 (毛馬内)
 阿部 春六 (1893-1974) 郷土文化の向上に貢献 (花 輪)
- ◆第7次展示 H9.10-H10.9
 内田 武志 (1909-1980) 民俗学と菅江真澄の研究 (八幡平)
 豊口 鋭太郎 (1873-1952) 秋田県教育振興に貢献 (毛馬内)
 種市 豊山 (1882-1945) スケールの大きい気骨の書家 (毛馬内)
- ◆第8次展示 H11.11-H12.10
 高橋 克三 (1888-1984) 湖南研究と地域先人の顕彰に尽力 (毛馬内)
- ◆第9次展示 H12.11-H13.11
 黒沢 隆朝 (1895-1987) 音楽教育と音楽起源の研究 (花 輪)
 大里 健治 (1898-1978) 音楽、郷土芸能の振興に寄与 (毛馬内)
- ◆第10次展示 H13.12-H14.11
 石田 収蔵 (1879-1940) 北方民族研究の草分け (花 輪)
- ◆第11次展示 H14.12-H15.11
 石川 伍一 (1866-1894) 国益に殉じた生涯 (毛馬内)
- ◆第12次展示 H15.12-H16.11
 小松 五平 (1891-1972) 鳴子旧系こけしを継承した名工 (大 湯)
 川村 薫 (1897-1976) 果樹指導と郷土新聞の草分け (花 輪)
- ◆第13次展示 H16.12-H17.11
 相川 善一郎 (1893-1986) 彫塑・彫刻など文化活動に貢献 (花 輪)
 馬淵 テフ子 (1911-1985) 空駆けた女流飛行家 (八幡平)
- ◆第14次展示 H17.12-H18.11
 川口 月嶺 (1811-1871) 盛岡藩を代表する絵師 (花 輪)
 泉澤 織太 (1777-1840)・牧太 (1778-1855)・恭助 (1806-1870) 学問のお師匠様泉澤家 (毛馬内)
- ◆第15次展示 H18.12-H19.11
 佐藤要之助 (1859-1892)・良太郎 (1878-1912) 鹿角りんごの礎を築いた父子 (花 輪)
- ◆第16次展示 H19.12-H20.11
 佐藤 良雄 (1906-1977) カザルスのチェロを日本に広めた (花 輪)
- ◆第17次展示 H20.12-H21.11
 小田島 紳子 (1882-1969) 花輪俳談会を創立 (花 輪)
 鎌田 露山 (1891-1966) 毛馬内俳句会を設立 (毛馬内)
- ◆第18次展示 H21.12-H22.11
 山先 青山家の人々 山相家 青山の名を高めた 青山庄藏栄重 (尾去沢)
 山先 川口家の人々 欧米の採鉱技術を学んだ 川口理仲太
- ◆第19次展示 H23.3-H24.3
 瀬川 清子 (1895-1984) 女性民俗学の大家 (毛馬内)
- ◆第20次展示 H24.10-H25.3
 和井内貞行「没後90年展」 (毛馬内)
- ◆第21次展示 H25.6-H25.12
 柴田 春光 (1901-1935) 才能をうたわれた若き画家 (毛馬内)

先人顕彰シリーズ②

新しい文化を 築いた人たち

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する資料の発掘収集・保存、事跡の調査研究と公開展示をしております。世界的な東洋史学者「内藤湖南」、十和田湖の開発に尽力をした「和井内貞行」の両氏をメインに常設展示し、

さらに各界の先覚者を順に展示紹介しております。

柴田 春光

鹿角市先人顕彰館

〒018-5334 秋田県鹿角市十和田毛馬内字柏崎3番地2
TEL 0186-35-5250



才能をうたわれた若き画家



Shunko Shibata

柴田春光

しばた しゅんこう

1901-1935

明治34年、製菓業を営む伊惣太・ロク（花輪村関村竜達六女）の長男として、毛馬内中町に生まれた。本名を良吉といい、感受性が強く、幼いころから絵の天分に恵まれた。

大正8年画家を志して上京、日本美術学校に学び、はじめ佐藤紫雲の門に入り、良雲と号していたが、やがて川崎小虎の門下生となり号を春光と改め、大和絵の手法を学んだ。

郷里毛馬内の生活風俗を好んで描き、郷里の生活を限りない愛情をもって表現した詩情豊かな作品をつぎつぎに発表した。

昭和10年、才能を惜しまれながら33歳で病没した。

略歴 a brief personal record

- 大正12年(1923) 中央美術展に「東北の或る町」が入選、「中央美術」の口絵に作品載る。
- 大正13年(1924) 「東北の或る町」と同じ構図で雪景色を描き、院展に入選した。
- 大正14年(1925) 「馬車待ち」が院展試作展に入選し、栄誉の院展賞を受けた。
- 大正15年(1926) 中央美術展に「雪すべり」が入選した。東京朝日新聞に連載の長編探偵小説「一寸法師」の挿絵を作者江戸川乱歩の推薦によって描いた。
- 昭和3年(1928) 帝展に「狭布の里」が入選。「みちのくの冬」(昭4)、「雪路の商い」(昭5)、「国上之草庵」(昭6)、「十和田路」(昭8)と次々に入選。
- 昭和4年(1929) 春の帝展といわれる日本画会に「巷の林檎売」が入選、同人に推薦された。